

議 事 録

件 名	第 2 回町田第三小学校跡地活用連絡協議会	
日 時	2025 年 9 月 19 日（金）10:30～11:40	
場 所	町田第三小学校西校舎 2 階 会議室	
出席者	委員	新小田急住宅自治会
		千代ヶ丘自治会
		東ヶ丘住宅自治会
		日向台自治会
		本町田町内会（3 名）
		弥生ヶ丘自治会
		町田市青少年健全育成本町田地区委員会
		町田市民生委員児童委員協議会町田第二地区
		※ 欠席：町田第二地区町内会・自治会連合会、グランリビオ町田ガーデンコート自治会、首都高速道路自治会、本町田町内会（1 名）、本町田宿自治会
	町田市	政策経営部企画政策課
資 料	・議事次第 ・【資料 1】 第 1 回町田第三小学校跡地活用連絡協議会議事録 ・【資料 2】 町田第三小学校跡地活用に関するサウンディング型市場調査実施結果概要 ・【資料 3】 町田第三小学校跡地の活用のコンセプト（案） ・【資料 4】 町田第三小学校跡地活用ワークショップチラシ ・【参考資料】 投影資料、席次	
議事録 （敬称略）	市：ただいまより「第 2 回町田第三小学校跡地活用連絡協議会」を開催する。初めに、事務連絡となるが、本日の連絡協議会は、記録作成のため、録音、写真撮影をさせていただくので、ご了承いただきたい。次に、配付資料は資料 1 から 4 の 4 点と、参考として投影資料、席次の 2 点を配付している。次に、本日の連絡協議会の進め方だが、事務局より、次第に沿って説明させていただく。最後に意見交換の時間も設けているが、質問や意見などがあれば、いつでも遠慮なく発言いただきたい。それでは、はじめに、企画政策課公共施設再編担当課長の平野より、ご挨拶を申し上げます。 < 1 はじめに > ▶ あいさつ（町田市） 市：6 月に実施した第 1 回連絡協議会では活用の方向性の素案をご覧いただき、意見をいただいた。本日の第 2 回連絡協議会に至るまでに、サウンディング型市場調査を実施し、民間の事業者の良い活用アイデアがないか確認したところである。本日は市が作成したコンセプトの素案について、皆様にご確認いただきたい。10 月にはワークショップの開催を予定している。参加者の皆様とともにこの場所でどんなことができるのか、考えていく場としたい。委員の皆様にもご参加いただき、一	

議事録 (敬称略)	緒に考えてもらえるとありがたい。また、周りに興味をお持ちの方がいらっしゃったら、ぜひお声掛けをお願いしたい。 < 2 前回のふりかえり【資料 1】 > 議事の 2～5 について、資料 1～4 及び投影資料を用いて市から説明した。主な説明については以下のとおり。 市：第 1 回連絡協議会でいただいたご意見のうち、市で持ち帰ったものについて回答する。 まず、植生について、市内の公園等の植生については過去に調査していたが、学校の敷地内の植生は調査していないことが判明した。町田第三小学校の隣地に造成も入るなど、検討が進む中で周辺の状況も変わってきている。もし皆様の方で町田第三小学校特有の植生についてご存知のことがあれば教えていただきたい。 続いて、避難施設について、学校跡地における避難施設がどのようなものになるのか、防災部署と整理をしている。町田第三小学校跡地に整備を想定している避難施設は、単に備蓄物資を保管するための倉庫というだけではなく、人が避難できる建物とすることが決まっている。ただし、既存の体育館規模の建物とはならない想定である。 続いて、子どもの意見を跡地活用の方向性に反映してほしいという意見について、2025 年度に本町田小学校と本町田東小学校が統合し、本町田ひなた小学校が開校したこともあり、関係の方々の町田第三小学校の閉校への意識も高まっていくと考えている。そのような意識の高まりと合わせて、跡地の次の使い方について考えるイベント等を、学校側と一緒にできないか、相談しているところである。進捗があり次第ご報告したい。 最後に、現在学校のグラウンド等で活動しているスポーツ団体との調整状況について、町田第三小学校における体育館やグラウンドの地域開放利用が、閉校に伴い終了することについては、スポーツ振興課から地域開放利用の代表者へ説明している。今後、現在地域開放利用をしている団体には、本町田地域の他の場所を利用するよう調整を図っていくと聞いている。 < 3 サウンディング型市場調査実施結果【資料 2】 > 市：サウンディング型市場調査とは、民間事業者に使い方等のアイデアを聞いてみるものである。町田市としても整備や維持管理・運営を行うには多くの費用がかかるため、少しでも民間事業者の力も借りて、費用を押さえながら整備できないかを探っている。7 月頃に実施し、まちづくり、不動産、維持管理等の 11 社からご意見いただいた。 調査結果の概要としては、民間事業者も町田第三小学校跡地に興味を持っている様子だった。事業者からは、敷地の一部であれば活用できるといった意見や、管理であれば敷地一体でも可能という意見があった。その他、立地的に駐車場の整備が
----------------------	--

議事録 (敬称略)	必要という意見も多く寄せられた。民間事業者のアイデアも参考にしながら、整備を進めていきたい。 < 4 町田第三小学校跡地活用の検討について【資料3】 > 市：第1回連絡協議会でゾーニング素案について説明した。その後検討を重ね、「活動でみんながつながれる場“まちさんプレイス“というコンセプト素案を作成した。自宅や職場に次ぐ居場所を指す”サード”プレイスの「サード(3)」と町田第三小学校の「三(3)」を掛け“まちさん”と表現している。 跡地の役割について、災害時の役割と平時の役割に分けて説明する。 災害時の役割について、跡地活用は、地域の防災拠点とすることを大前提しているので、引き続き避難できる機能を維持していく。加えて、在宅避難者を支える物資の供給拠点としても整備していきたいと考えている。 平時の役割について、①「だれでも自由に使える広場」機能、②「さまざまな体験・活動ができる広場」、③「みんながつながれる地域の居場所」機能の3つの役割を考えた。③は地域の人たちが集まれる場となる建物の整備を想定している。第1回連絡協議会でも、建物の大きさに関する質問があったが、現時点では300㎡ほどの規模を想定している。300㎡のうち、80㎡は備蓄倉庫、その他トイレ等のスペースを考慮すると、実際に活用可能なスペースは80㎡の空間が2つほどの想定である。参考までに、連絡協議会の会場のある現町田第三小学校西校舎の建築面積が400～500㎡ほどであり、建物全体の大きさは、西校舎の1層分を一回り小さくしたイメージ。また、活用可能なスペース80㎡は、学校の教室が60～70㎡程度なので、教室よりは大きいものとなる。その想定から避難者の収容可能人数を試算すると、100人程度となる。現在、町田第三小学校には500人ほどが避難してくる想定であり、町田第三小学校跡地での収容人数が100人程度となることによって、残る400人ほどの避難先はひなた村に避難いただくことを想定している。本町田ひなた小学校の工事期間中に避難施設として使えなくなる代わりに避難施設として2025年度から指定されているひなた村を、工事完了後も引き続き避難施設として指定するよう調整しているところである。 < 5 ワークショップ「まちさんかいぎ」開催について【資料4】 > 市：10月26日(日)にワークショップを開催する。2025年度のワークショップでは、大学の先生や地域で活動されている方の話を聞き、町田第三小学校跡地でどんなことができるのか考えてみようという内容になっている。跡地活用に際しては地域の大人だけでなく、子どもたちがどのように考えているのかという点も重要だと考えている。大人も子どもも楽しめるプログラムを準備しているので、地域の方への周知はもちろん、委員の皆様もぜひ参加してほしい。2026年1月17日には第2回となるワークショップも予定している。平時の使い方と災害時の使い方について考える内容を予定している。内容が確定次第、皆様に共有する。
----------------------	---

議事録 (敬称略)	< 6 意見交換 > 委員：スポーツ団体の利用は考えていないということだったが、今の公園はボール遊びが禁止のことが多い。個人であればそういった遊びができるようにしてほしい。 市：限られた団体が占有する学校開放のような使い方は想定しておらず、地域の皆様に広く使っていただきたいと考えている。一概に野球やキャッチボールが禁止という話ではなく、例えば北側の広場はボール遊びを可能とするなど、ルールは整理していく必要がある。 委員：活用イメージには駐車場が想定されていないが、どこに整備するのか。駐車場の規模や場所、動線などの検討はされているのか。 市：敷地に建物を整備するには接道が必要となる。町田第三小学校は鎌倉街道側しか接道しておらず、北側は道路が橋の手前までとなっており接道していない。駐車場の位置は決まっていないが、サウンディング型市場調査の参加事業者からは、日向台北公園を活用するのはどうかという提案があった。その場合、公園の面積を減らすことはできないので、町田第三小学校跡地に公園を付け替えるといった調整や、現状の公園を駐車場とすることに関する近隣住民との調整が必要になると考えている。 委員：日向台北公園の利用者は少ない。過去には素行不良者のたまり場となり、近隣住民からの苦情によって遊具が撤去された経緯もある。最近ではあまり人がいるのを見ない。近隣住民への説明がうまくいけば駐車場としての整備は現実的なのではないか。 市：町田第三小学校は敷地に高低差もあり、車を敷地に入れない方が、歩車分離もでき安全であるとする。また、敷地の用途についても、一部だけを公園とするなどの案も考えられる。敷地としての一体性が損なわれないような整備を進めたい。 委員：敷地の使い方に応じて行政側での制限やルールが出てくると思うが、使い方にあわせて、その垣根をどう取り払うかが課題と考えている。とはいえ、素行不良者のたまり場となることは避けたい。セキュリティの確保については強く希望する。 市：利用上のルールの話だと思う。近隣住民の方へ配慮しながら検討していきたい。 委員：現校舎を取り壊すということだったが、築 60 年となる現校舎の安全性について、地盤の調査やコンクリートの中性化調査などはしているのか。まだ活用が可能なのであれば、耐震補強し活用することも考えられるのではないか。壊してしまうのは資源の有効活用の観点からするともったいないように思う。 市：町田第三小学校では直近でそのような調査は実施していない。過去にそのような調査を実施しているのかについては確認が必要。ただし、本町田地区の学校統合の検討の経緯として、児童の減少と建物の老朽化を前提に検討を進めていることもあり、現段階で校舎等を残す検討はしていない。 委員：体育館は鉄骨造のため、活用は厳しいと思う。また、本校舎をそのまま残すほどの規模はいらないとも思っている。ただ、西校舎だけでも骨組みと基礎だけ残して再利用するというのも選択肢の一つとして検討の余地があるのではないか。 市：西校舎は建築面積が 1,400 m²ほどとなるが、そこまでの広さを活用する案は現時点で考えていない。
----------------------	--

議事録 (敬称略)	委員：減築することも一つの案だと思う。 委員：昨年度のワークショップでは、どの組からも現校舎ほどの規模の建物を活用する案は出なかった。活用規模にあわせた建物の広さで十分だと思う。減築にも費用がそれなりにかかるはずである。 市：平時から 1,400 m²の広さを使うのであれば、建物を残した方がよいという議論になるかもしれない。必要な広さの議論と並行して、どのような手法が費用的に優位か、引き続き検討する。 委員：今年の夏は暑く、子どもたちが外で遊べない日が多かった。子どもたちの避暑地となるような空間が欲しい。そういった検討はされているのか。 市：前回も同様のご意見をいただいたが、「みんながつながれる地域の居場所」機能として整備する建物で叶えられるようにしたい。限られた人が使うのではなく、様々な世代の人が使えるようなスペースとしていきたい。また、行政だけで決めるのではなく、地域の皆様とともに皆で考えたい。 委員：走るのが好きな子もいれば本が好きな子もいる。ちょっとしたスペースで本を読みたいという需要もあると思う。 市：建物内部の活用方法については徐々に具体化していきたい。 委員：建屋を再利用する場合にかかる費用は調べてみてほしい。全てを解体するのと、骨組みを利用するのとではどちらが費用的に優位なのか調べてみてほしい。 市：2026 年度に基本計画を策定する中で、建物規模や概算事業費を整理していく。 市が作成したコンセプト素案について、どのような印象を受けたかご意見を伺いたい。 委員：良いと思う。(その他、多数の委員から拍手あり) 市：素案のとおり進めていきたい。 委員：避難施設機能や地域の活動の場も叶いそうで安心した。学校敷地の境界に沿って生えている竹林も残してほしい。ワークショップ参加者募集チラシは子どもにも配っているのか。 市：チラシは町田第三小学校にご協力いただき、児童に配付したほか、校内放送や保護者向け配信アプリ(tetoru)でも配信いただいた。子どもだけでなく、地域の方もぜひご参加いただきたい。 委員：公園を駐車場とする案について、それだけでは駐車スペースが足りないのではないか。また、避難施設として建物も整備するという話だったが、ひなた村は本町田東小学校の工事に伴う避難者が逃げてくるはずであり、町田第三小学校の避難者が 500 人程度想定されている中で、100 人しか避難できなくなってしまうとなると、ひなた村では避難しきれなくなってしまうような気がする。 市：駐車場について、跡地の活用方法によって、適正な台数が決まってくると思う。現段階では、広域からの利用は考えておらず、近隣の地域の方の利用が主だと考えており、日向台北公園程度の広さ程度で足りるものと想定している。 避難施設について、町田第三小学校は現在 500 人ほどが避難する想定となっている。先ほど説明したコンセプト素案に基づき、町田第三小学校跡地に建物を建てると、100 人が避難できる程度の建物となる。現在、本町田ひなた小学校建設工事期
----------------------	--

議事録 (敬称略)	間は、主に旧本町田東小学校の自主防災組織が避難施設としているひなた村は 500 人ほどの避難者を収容が可能である。町田第三小学校の跡地活用が開始される 2028 年度には、本町田ひなた小学校の新校舎の供用が開始し、旧本町田東小学校の自主防災組織は、本町田ひなた小学校の新校舎をメインの避難施設とすることから、ひなた村の収容人数に 500 人程度の空きができる。そこに、現時点で町田第三小学校に避難してくる人数 500 人から、町田第三小学校跡地に収容できる人数 100 人を差し引いて 400 人程度はひなた村に避難していただく想定である。 委員：備蓄倉庫の広さは 80 m²程度で済むのか。在宅避難者向けに新たに作るのであれば、もっと大きい倉庫を作った方が良いのではないか。 市：備蓄倉庫の大きさについては防災課と調整していく。倉庫の大きさ以外にも、備蓄物資の運搬には車両の導線も確保する必要があると考えている。 < 7 今後の予定 > 市：跡地活用の方向性をイメージできるよう、2026 年 3 月に「町田第三小学校跡地活用コンセプトブック（仮称）」を策定予定である。それを踏まえて 2026 年度は基本計画を策定していく。 < 事務連絡 > 市：最後に、事務連絡となる。次回の本連絡協議会については、12 月 24 日（水）を予定している。時間、場所は今回と同じく、10 時 30 分から 11 時 30 分、町田第三小学校西校舎 2 階会議室となる。 以上
----------------------	--